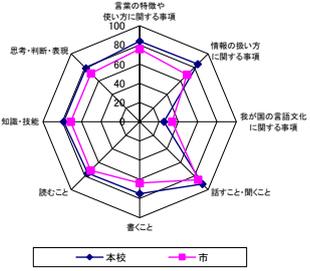


宇都宮市立西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	83.9	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	85.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	25.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	91.7	85.5	86.5
	書くこと	75.0	63.9	65.8
	読むこと	75.8	71.6	69.5
観点別	知識・技能	78.6	71.3	72.9
	思考・判断・表現	78.7	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	83.9	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	85.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	25.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	91.7	85.5	86.5
	書くこと	75.0	63.9	65.8
	読むこと	75.8	71.6	69.5
観点別	知識・技能	78.6	71.3	72.9
	思考・判断・表現	78.7	71.3	71.4

★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点	
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均正答率を8.1ポイント上回っている。 ○「三字熟語の成り立ちについて理解している」問題の正答率は75.0%で、市の平均を7.8ポイント上回っている。 ○「文と文との接続の関係を理解している」問題の正答率は60.0%で、市の平均を16.8ポイント上回っている。 ○「敬語について理解し、正しく使っている」問題の正答率は100%で、市の平均を15.9ポイント上回っている。	・漢字スキルやAドリルでの学習に加え、ICT教材の活用を通して、個別最適な学習方法で漢字の定着や語彙の拡充を図る。 ・「序論・本論・結論」の構成を意識した文章を作ることができるように、接続語などを意識させた文章作りを指導していく。	16
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率を15.9ポイント上回っている。 ○「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」問題の正答率は85.0%で、市の平均正答率を15.9ポイント上回っている。	・説明文単元の学習の際には、接続詞に着目しながら文の要旨が捉えられるように指導していく。 ・目的意識をもって文を書いたり、文の要旨をまとめる活動を多く取り入れる。また、文章を正しく読み取るための段落の構成について学ぶ際には、図表、グラフなどの資料の読み取り方についても指導していく。	13
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率を8.5ポイント下回っている。 ●「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」問題の正答率は25.0%で、市の平均正答率を8.5ポイント下回っている。	・和語・漢語・外来語の見分け方や用い方について、クイズ形式で答える活動を取り入れたり、辞書やインターネットを活用して語彙を拡充したりなどすることによって、更に習熟を図っていく。 ・「宇都宮学」での百人一首の学習から、言語文化についての学びを広げられるようにしていく。	15
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を6.2ポイント上回っている。 ○「話の内容を捉えている」問題の正答率は100%、「意図に応じて、質問を工夫している」問題の正答率は95%、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている」問題の正答率は80%で、いずれも市の平均正答率を上回っている。	・話し合い活動や自分の意見を言葉で伝える活動を多く取り入れ、話し方や聞き方の工夫、司会の役割などを考えながら、話し合えるように指導していく。	9
書くこと	平均正答率は、市の平均を11.1ポイント上回っている。 ○「自分の意見とその理由を明確にして書いている」問題の正答率は100%で、市の平均を15.4ポイント上回っている。 ○「予想される反論とそれに対する意見を書いている」問題の正答率は70%で、市の平均を18.8ポイント上回っている。	・テーマや条件、目的や意図に合わせて、グラフや表をもとにしたりして、伝えたい内容を整理しながら書けるように、具体的な書き方を提示しながら文章表現力を高めていく。 ・自分の意見とそれを支える理由や根拠を明確にしてから書く活動に取り組みように指導していく。 ・説明文単元の際には、段落構成を意識して双括型の文章を書いたり、読み合ったりする活動を取り入れ、理解と定着を図っていく。	4
読むこと	平均正答率は、市の平均を4.2ポイント上回っている。 ○「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」問題の正答率は90.0%、「登場人物の様子について、描写を基に捉えている」問題の正答率は90.0%、「物語の全体像を具体的に想像している」問題の正答率は85.0%で、いずれも市の平均正答率を上回っている。 ●「説明文の文章全体の構成を捉えている」問題の正答率は70.0%で、市の平均を6.9ポイント下回り、課題が見られる。	・物語文においては、叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えられるように、時系列の変化や出来事、物語文におけるキーワードなどに着目させながら文章の内容が読み取れるように指導していく。 ・児童が様々な作品や文章に触れる機会を増やし、読書に親しむ態度の育成や読書活動の充実を図っていく。 ・説明文においては、「始め・中・終わり」の三部構成や、筆者の主張が文章のどこに示されているかなどが正しく捉えられるように指導していく。	4

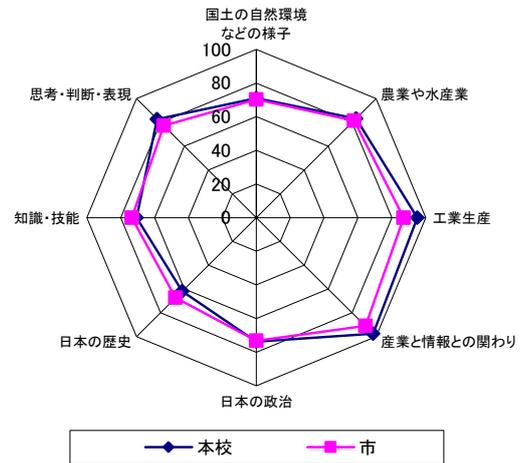
番号	表示タイトル	本校	市	参考値
1	使いに関する事項	83.9	75.8	77.5
2	情報の扱い方に関する事項	85.0	69.1	67.0
3	我が国の言語文化に関する事項	25.0	33.5	37.2
4	話すこと・聞くこと	91.7	85.5	86.5
5	書くこと	75.0	63.9	65.8
6	読むこと	75.8	71.6	69.5
1	知識・技能	78.6	71.3	72.9
2	思考・判断・表現	78.7	71.3	71.4

宇都宮市立西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.0	70.3	66.4
	農業や水産業	83.3	81.6	75.3
	工業生産	95.0	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	97.5	91.0	81.3
	日本の政治	73.8	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	61.9	67.4	68.5
	知識・技能	70.6	73.5	72.5
	思考・判断・表現	82.8	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

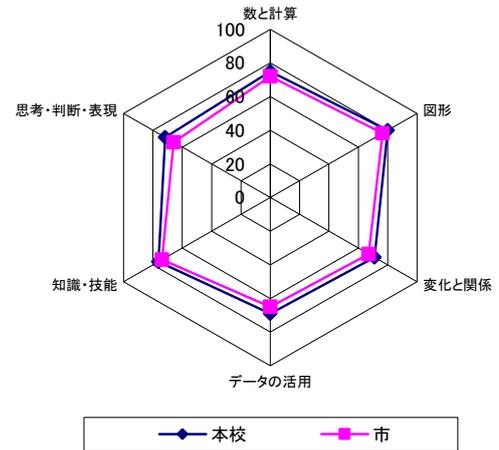
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均より0.7ポイント上回っている。</p> <p>○海外の国土について選択する問題では、市の平均回答率より12.1ポイント高いことから各国の位置関係を理解していることが分かる。</p> <p>●日本の周辺の海洋や日本の地形を問う問題では、市の平均を下回っていることから、日本の地理への理解が不足していることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で地図を用いる機会を増やし、地理的知識の定着を図る。 ・日本の国土の位置関係について、日本地図の活用や日本の国土の位置関係について定着を図る。
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均より1.7ポイント上回っている。</p> <p>○水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する問題はよく理解している。</p> <p>●米の生産が盛んな地域について、地図を読み取る問題では、市の平均を8.7ポイント下回っており、課題があることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から正しく内容を読み取り、自分自身の考えを持たせたり、資料を取捨選択したりする機会を増やすことで、資料の読解力を伸ばしていく。
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均より8ポイント上回っている。</p> <p>○自動車の製造工程や、工業製品の分類はよく理解していることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車工場の見学や体験活動などを通して、児童や興味・関心を高めて学習に取り組み、内容を理解することができていることが推測できるため、今後もこのような活動を継続していく。 ・資料から読解した内容を言葉で記述する機会や、記述式の問題を解く機会を増やす。
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均より6.5ポイント上回っている。</p> <p>○インターネットを利用する上での注意すべきことについてはよく理解できている。</p> <p>●さまざまなメディアの特徴について理解し、必要に応じて取捨選択する点に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教室を開催したり、授業の中で情報化社会のメリットとデメリットを確認したりすることで、正しい情報を取捨選択するスキルの向上を図る。
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均より0.6ポイント上回っている。</p> <p>○日本国憲法における天皇の地位や、国民の義務についてはよく理解できている。</p> <p>○法律ができるまでの流れについて、資料を読み取ることができていることが分かる。</p> <p>●基本的人権の尊重について課題があることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においてニュースや新聞といったメディアを活用して、内閣や国会の働きについて、実生活と関連させて考えられるようにする。 ・資料をもとに自分の考えをまとめる力を育成するために、教科書や資料集の活用など、多様な情報に触れ必要な情報を取捨選択して活用するスキルを身に付けさせる。
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均より5.5ポイント下回っている。</p> <p>○飛鳥時代の中大兄皇子が行ったことについては、おおむねほとんどの児童が理解している。</p> <p>●江戸時代の禁教と鎖国について、適切な資料を選択し判断する力について課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景と出来事の因果関係を理解できる力の育成を図る。

宇都宮市立西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.0	72.1	74.6
	図形	80.0	76.5	76.1
	変化と関係	71.0	67.1	59.7
	データの活用	69.0	65.0	64.5
観点別	知識・技能	76.2	73.8	74.7
	思考・判断・表現	71.7	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

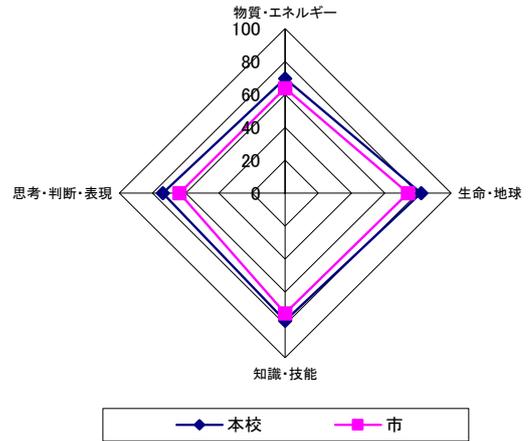
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は75.0ポイントで、市の平均正答率を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○小数や分数の四則演算と文字を使った式の正答率が高い。</p> <p>●分数の比較量が分数の基準量の何倍か求める問題が市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数・分数の計算の仕方については、計算ドリルやAIDドリルを活用し、計算技能の定着をさらに図っていく。 ・整数よりも抽象度の上がる分数の計算は整数の問題と照らし合わせながら理解を深めさせたい。
図形	<p>平均正答率は80.0ポイント、市の平均より3.5ポイント上回っている。</p> <p>○全体的に市の平均を上回っている。</p> <p>●対称な図形の対応する点を答える問題と点対称な図形を選ぶ問題が市の平均並みだった。</p> <p>●合同な三角形を作図する問題の正答率が市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対称な図形を頭の中で操作することに苦手さを感じている児童がいると考えられる。デジタル教科書の動く図形を見せることでイメージできる活動を取り入れる。 ・作図は授業の最初に動画で見せ、その操作をする意味を確認する活動を取り入れることで理解を深めさせたい。
変化と関係	<p>平均正答率は71.0ポイントで、市の平均より3.9ポイント上回っている。</p> <p>○速さの問題の正答率が市の平均を大きく上回った。</p> <p>●グラフの基準量と割合から比較量を求める問題の正答率が市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生から数直線を活用して立式させることを徹底することで何故その式になるのかの理由付けをしていく。 ・文章中やグラフから基準量を判断できない児童には、キーワードになるような文を示して、定着を図るなかで理解を深めていく。
データの活用	<p>平均正答率は69.0ポイント、市の平均より4ポイント上回っている。</p> <p>○平均を求める問題の正答率が市の平均を大きく上回った。</p> <p>●度数分布表を作成する問題の正答率が市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表値の定着を図るため、繰り返し指導していく。 ・説明を書く機会を増やすことで、説明の流れを定着させていく。

宇都宮市立西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.7	63.8	61.6
	生命・地球	81.9	74.1	73.3
観点別	知識・技能	77.5	73.0	71.3
	思考・判断・表現	73.8	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より5.9ポイント上回っている。問題別に見ても上回っているものが多い。</p> <p>○振り子の周期は長さに依存することを理解し、条件設定を考えて同じ周期になるものを選ぶ問題では、市よりも14.9ポイント高い。</p> <p>○薄い塩酸と炭酸水を見分けるための実験を説明する問題では、市より33.7ポイント高い。</p> <p>●2つの実験結果の違いから電磁石の強さを変える要因を選ぶ問題では、市の平均より17.9ポイント低い。</p> <p>●蒸発したときに何も残らない水溶液には、気体が溶けていることを答える問題では、市の平均より6.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、実験のねらいや、条件設定を明確にするよう支援し、理科的な見方を身に付けさせていきたい。 電磁石の実験では、実験計画を自ら立てる活動を取り入れることで、調べることを明確にして条件設定をし、それを踏まえた考察を行うことができるよう支援する。 「水溶液の性質」の学習では、水溶液の性質と性質を見分ける実験方法を、しっかりと理解している必要がある。どのような条件下で実験をし、どのような性質を調べるのか、十分に把握して実験させることや、分かった結果を一覧表などにして見やすくまとめ、水溶液による違いをきちんと理解させていくと共に、様々な結果から推論する学習も取り入れていく。また、「気体」等の用語もしっかりと意味をおさえて理解させる。
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均より7.8ポイント上回っている。問題別にみても、上回っているものが多い。</p> <p>○「流れる水のはたらき」と「植物のつくりとはたらき」においては、どの問題も市の平均を上回っている。</p> <p>○運動しているときに酸素をたくさん使っていることを、気体に注目して確かめる実験方法を選ぶ問題では、市よりも20.3ポイント高かった。</p> <p>●動物の食べ物をつたっていくと最終的に植物に行きつくことを選ぶ問題では、市より11.1ポイント低かった。</p> <p>●月の見える形が変わる理由を選ぶ問題では、市よりも6.9ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「流れる水のはたらき」では、視覚機器や実験を取り入れ身近な問題として取り組めるようにしてきた。実際に体験できない内容については視覚教材を充実させるとともに、画像や情報から読み取り、得られたことを結び付けた考え方ができるように、考察の場面を十分に確保していくようにする。 「生物とかんきょう」の学習では、食物連鎖という言葉については理解しているが、事例を多くとりて考えることで、食物連鎖について、様々な視点から思考を深めていくようにする。 「月と太陽」の学習では、見え方や動き、位置関係に注目させて実験を行い、十分に記録をとって結果を考察させるようにする。また、画像を活用し、実感が伴う理解ができるようにする。
知識・技能	<p>平均正答率は、市の平均より4.5ポイント上回っている。</p> <p>○「物質とエネルギー」の領域では、ほとんどの問題において市の平均を上回っている。</p> <p>●「生命と地球」の領域では、脈拍については市より6.2ポイント、食物連鎖が最終的に植物に行きつくことでは11.1ポイント、月の形が見える理由については6.9ポイント市よりも低かった。画像を活用し理解を深め、実験や観察に工夫をする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き理科的な言葉や現象の意味を丁寧に捉えさ、ワークシートへ記述したり、発表の場を設けたりすることで表現を反復練習し、基礎的な理解が定着するよう支援する。 重要な言葉は、実験の中で実験・観察や結果を記録し、考察する中で、何度も触れさせるようにする。さらに、実物や画像と結びつけ、現象として十分に理解させるようにする。 目に見えにくい物、実物での実験観察が難しい物についての理解が十分ではない面が見られるので、モデルを使った表現をしたり、実物での観察が難しい物は、可能な実験観察と、資料や画像を結びつけた学習を行ったりして、より実感が伴った理解ができるように授業の展開を工夫する。
思考・判断・表現	<p>平均正答率は、市の平均より10.0ポイント上回っている。</p> <p>○「生命と地球」の領域では、ほとんどの問題において市の平均を上回っていた。</p> <p>○「流れる水のはたらき」や「水よう液の性質」等の記述式の問題では、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●「物質とエネルギー」の領域では、電磁石の強さを変える要因を指摘する問では市よりも17.9ポイント、木を缶の中で効率よく燃やす方法については、4.1ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、課題を見つけ、実験計画を立て、予想し、条件設定を明確にして実験・観察をし、結果から考察するという一連の流れを大切にしておくことで科学的な思考力を高めていく。 観察・実験結果を記録・考察する中で、分かりやすく記述したり相手に伝えるように考えを述べたりすることが少しずつ身に付いてきている。引き続き、考察の着眼点や、キーワードなどを示し、繰り返して経験することで、科学的な言葉を用いながら、自分の考えを表現できるように支援する。 条件設定を発問の中から読み取るのが難しかったり、単元を通して理解したことを総合的に活用して考えたりする問題にまずまきが見られる。現象について多角的に考える目を養うために、まとめの活動を大切に、現象から実生活へとつながる実験や、学習したことを活用した物作りなどを取り入れることで、発展的、応用的な思考力を高めていく。

宇都宮市立西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルの徹底	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、児童の授業への期待感を高め、一人一人が解決の見通しをもつことができる導入、十分に思考するための時間や活動時間の確保、学び合いによる深まりのある展開、児童が自らの学習成果をフィードバックし次時につなぐことができるような、まとめ・振り返りの終末を目指した授業作りに取り組んできた。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的割合が、6年生では84.0%で市の平均より9.5ポイント高い。5年生では72.7%で市の平均より4.0ポイント低い。4年生では93.9%で市の平均より15.0ポイント高い。全ての学年において児童が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、思考したことを他者と共有する時間を十分に確保し、まとめや振り返りを自分の言葉で表現できる力の育成を目指しながら、授業の工夫改善に取り組んできた成果であると考えられる。
対話的で深い学びに迫る学び合いの工夫	学校課題にも掲げた「表現力の育成」のため、対面による対話のみならず、1人1台端末やICT機器を活用した効果的な交流方法の工夫改善に取り組んできた。教師のコーディネートによる議論の深まりや言語活動の充実を目指した支援の工夫・改善を図った。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の肯定的割合が、6年生では72.0%で市の平均より4.4ポイント高い。5年生では54.5%で市の平均より9.5ポイント低い。4年生では81.8%で市の平均より13.9ポイント高い。話し合い活動を通して、児童は自分の考えに自信をもったり、思考を深めたりすることができていると捉えられるが、一方で、自分の考えを書いて表出することについては課題が見られる。
個に応じた学習	高学年において、単元ごとに習熟度別学習やチームティーチングなど学習形態の工夫を図っている。また、朝の学習の時間におけるパワーアップタイムや朝の学習の実施により、個別最適な学習を目指して取り組んでいる。図画工作や家庭科ボランティアの活用により、個に応じた指導の充実も図った。	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」の肯定的割合は、6年生では56.0%で市の平均より18.0ポイント高い。5年生では39.4%で市の平均より2.7ポイント低い。4年生では63.6%で市の平均より15.3ポイント高い。家庭学習の意義やその取り組み方について、児童が理解して取り組んでいることが伺える。また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からない点を見直し、次の学習につなげることができる」の肯定的割合は、6年生では64.0%で市の平均を0.9ポイント下回っている。5年生では57.6%で市の平均より6.1ポイント低い。学年差はあるものの、学習意欲は決して低くはないと考えられる。学習意欲形態の工夫のみならず、児童が問題解決学習に意欲的に取り組んだり、課題を選択して粘り強く活動したりすることができる学習環境づくりに努めていく必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

今年度の学校課題「主体的・対話的で深い学び」を実現するために思考力・表現力の育成に焦点を置いて研究を進めてきたが、漢字の習得や語彙の豊かさ、基本的な四則計算の習得に個人差が見られる。特に「書くこと」に関しては、自分の考えや思いをもつことはできるが、それを段落構成を意識して文章に書き表したり、段落相互のつながりを考えて構成したりすることに課題が見られる。そこで、十分に思考する時間を確保したのち、目的や根拠を明らかにして思考を組み立て、事実と自分の考えを区別してまとめる活動の充実を図り、書き表し方の工夫について取り組んでいく必要がある。